



アセット・アロケーションの難しさ

新年度に入って、株価、金利、為替の動きが激化している。いずれも、「トレンドの変化」なのか、単に「スピード調整」とみるのか、まさに、ファンドマネジャー泣かせの相場である。

昨年度を上回る運用実績を確保するために、どの資産クラスに期待を繋げばよいのか、判断が難しい局面になってきている。

そこで「割安資産を買い、割高資産を売る」戦術的アセット・アロケーション (TAA) が、リターン向上策の一助になるかもしれない。

年金資産のリターンを増大し、リスクを低減させるため、資産配分の重要性について、関係者の理解が深まってきているが、問題は、ある資産が割安かどうかの判断基準である。

科学的投資手法といっても、100%確実な予測は不可能であり、TAA に集中投資するリスクもある。従って、あくまでも長期的な基本ポートフォリオを基準に、一部を TAA 運用することで、リターン増強を狙うような慎重な対応が求められよう。

《目次》

- ・ 年金法制：受託者責任を考えるヒントー資産運用ガイドラインについて (下)
- ・ 投資手法：戦術的アセット・アロケーション (2)
- ・ 年金会計：「従業員給付」に関する国際会計基準の公開草案